

論説

2023-9-25

感染対策を怠らぬよう

コロナ拡大続く

新型コロナウイルスの感染拡大が続いている。インフルエンザの流行も広がり同時流行の懸念だ。高齢者や基礎疾患のある人など重症化リスクのある人を守るための感染対策を怠ってはならない。

新型コロナウイルスの感染報告数は感染症状上の「5類」に移った5月から増え、高止まっている。厚生労働省によると、昨年11月17日の1一定点医療機関当たり1.8人の感染報告数は17・5人で、5類移行直後の約4倍。また「第9波」に突入したこの見方もある。

卒業の進行が早いインフルエンザもこの月下旬から拡大し始め、各地の学校などで休校や休学・学級閉鎖が相次いでいる。

新型コロナウイルスは重症化して亡くなるものの、体力が低下する高齢者や、基礎疾患のある人には今も重症化のリスクがある感染症だ。

医療機関や高齢者施設を訪れる際や、高齢者と会う際はインフルエンザ予防接種や、日常会話でもマスクを着用し、手洗いなど気を配らなければならない。

5類移行後、きのう細かい感染状況が公表されなくなり、感染症への関心低下を危惧する。政府や自治体は引き続き状況把握に努め、注視を怠らなければならない。

厚生労働省は16日以降、全国公費負担で治療を受けた感染者の把握に際して拡大の予兆の自覚を報告するよう呼びかけた。調子を確保してきつ医療機関に寄せられる情報や診療記録も精査する。

昨年度、肺炎やインフルの治療に医療機関で受けられた患者の医療費は約46兆円で、コロナも増加した。自治体の財政負担を軽減するため、国費の財政負担を減らすことが、公的負担を減らす取り組みの一つである。

治療の自己負担を減らすためには、感染しても重症化しない人が相次ぐ可能性がある。それを放っておけば感染拡大にもつながる。政府は感染の予防や医療機関の感染対策を強化して、感染状況を適切に把握する必要がある。

10月28日からは、毎週1億回以上行われる感染対策の強化が、新型コロナウイルスの感染拡大を抑制する。また、自治体によって接種率や接種の回数が増えたり、高齢者や障がい者などの接種率を高める取り組みが、感染拡大を抑制する。

新型コロナウイルスは、まだ感染への備えを怠らなければならない。